



コースコード : DO-SREF

税込価格 : 140,800円 (税抜価格 : 128,000円)

日数 : 2日間

トレーニング内容

本トレーニングは、2026年4月より

受講価格を改定いたします。価格改定の詳細については以下をご確認ください。

[一部トレーニング受講価格改定のお知らせ](#)

本トレーニングでは、Site Reliability Engineering (SRE)

の概要を学び、重要なサービスを確実かつ経済的に拡張するための原則と実践を紹介します。

SREの主要な情報源を活用し、SRE分野のオピニオンリーダーと協力し、SREを採用している組織と協力して実際のベストプラクティスを抽出することで開発されたこのトレーニングは、SREを採用するために必要な、主要な原則と実践を学ぶことができるよう設計されています。

サイト・リライアビリティの側面を導入するには、組織の再編成、エンジニアリングおよび自動化への新たな取り組み、そして様々な新しい作業パラダイムの採用が必要です。

本トレーニングでは、SREの進化とその将来的な方向性に焦点を当て、信頼性と安定性に関わる組織全体の人々を巻き込むための実践手法やツールを、実際のシナリオやケースストーリーを用いて学びます。

このトレーニングを修了すると、サービスレベル目標 (SLO)

の理解、設定、追跡など、自組織に戻ってから活用できる具体的な成果を得ることができます。

本トレーニングは「Site Reliability Engineering Foundation」試験の内容を網羅しています。

ここに注目!!

サービスの信頼性を向上させるための、自動化、作業方法、組織の再編成などを組み合わせたさまざまな実践方法を紹介します。

大規模なサービスの可用性を重視する方に適しています。

対象回限定で受講料が最大30%OFFになるキャンペーンを実施中！

詳細は [こちら](#)

本トレーニングに関する資格を取得された方にお話しを伺いました。

以下から合格体験記をご覧ください。

[SRE Foundation 合格体験記 1](#)

[SRE Foundation 合格体験記 2](#)

ワンポイントアドバイス

受講料には、認定資格試験パウチャー費用も含まれております(試験パウチャー単体でのお申し込み

みはできません)。

本コースは、「Site Reliability Engineering Foundation」試験の内容を網羅しています。

試験バウチャーの有効期限はコース開始日から11ヶ月を保証します。

試験時間：60分(試験は、テキストや資料などの持ち込みが許可されています)

問題数：40問の多肢選択問題(合格点65%以上)

試験言語：日本語選択が可能です。

再受験費用を含んだTake²

オプションをつけることも可能です。Take²オプションについて詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

受講対象者

このコースの受講対象者は次の通りです。

- ・信頼性向上への取り組みを始めた方、または主導している方
- ・現代のITリーダーシップや組織変革のアプローチに興味のある方

前提条件

このコースを受講する前に受講者が習得しておく必要がある知識およびスキルは次のとおりです。

- ・一般的なDevOpsの定義と原則に関する基本的な知識があること

目的

このコースを修了すると次のことができるようになります。

以下トピックへの実践的な理解が含まれています。

- ・SREの歴史とグーグルでの登場
- ・SREとDevOpsやその他の一般的なフレームワークとの相互関係
- ・SREの基本理念
- ・サービスレベル目標(SLO)とそのユーザーフォーカス
- ・サービスレベルインジケータ(SLI)と現代のモニタリング事情
- ・エラーバジェットとそれに伴うエラーバジェットポリシー
- ・トイルと組織の生産性への影響
- ・トイルをなくすためのいくつかの実践的なステップ
- ・サービスの健全性を示すものとしての観測性
- ・SREツール、自動化技術、セキュリティの重要性
- ・アンチフラジリティ、失敗と失敗のテストに対する私たちのアプローチ
- ・SRE導入がもたらす組織的なインパクト

アウトライン

SREの原則と実践

SREとは？

SREとDevOps：その違いとは？

SREの原則と実践



サービスレベル目標とエラーバジェット

サービスレベル目標(SLO: Service Level Objective)

エラーバジェット

エラーバジェットポリシー

トイルの削減

トイルとは？

なぜトイルは悪いことなのか

トイルをどうにかする

モニタリングとサービスレベル指標

サービスレベル指標(SLI: Service Level Indicators)

モニタリング

オブザーバビリティ

SRE ツールと自動化

自動化の定義

自動化の焦点

自動化の種類の階層

セキュリティの自動化

自動化ツール

プログレッシブデプロイメント

AIOps

バリューストリームマネジメントプラットフォーム

プラットフォームエンジニアリング

生成AI

アンチフラジリティと失敗からの学習

失敗から学ぶ理由

アンチフラジリティのメリット

組織のバランスを変える

避難訓練

カオスエンジニアリング

SRE の組織的影響

組織がSREを導入する理由

SRE導入のパターン

SREの業務内容

持続可能なインシデント対応

非難なしのポストモーテム

SREとスケール

SREとその他のフレームワーク、将来について

SREとその他のフレームワーク

SREの進化

その他の情報源

試験の準備

試験条件、問題の重み付け、用語のリスト



サンプル試験レビュー